２０２１年度

大谷中学校
大谷高等学校

釈尊降誕 花まつり

日　　時　　2021（令和3）年5月7日（金）　全校１.２限

会　　場　　各クラス（リモート）

「お花まつり」から学ぶ命の大切さ　大谷中学校・高等学校　校長　堀川　　義博

『お花まつり』は、仏教を開かれたお釈迦様の誕生日を祝う行事です。仏教なら宗派を問わず、世界の各地で、お釈迦様の智慧と大慈悲に感謝の誠を捧げる日となっています。

お釈迦様は今から２,５００年ほど前に、現在のネパール地方で、釈迦族の王子様としてお生まれになりました。お釈迦様は生まれてすぐに、四方に七歩ずつ歩み、右手で天を、左手で地を指して、「天上天下、唯我独尊」と言われたと伝えられています。このお言葉は「人は誰でもこの世に一人だけであって、他の誰とも決して代わることができないただ一人の存在である。生きとし生けるものは、全て尊い命を持ち、この世に生まれた者は皆平等である。」と解釈されています。

私たちは雑多な忙しい日々の中で、授けられた命についてはほとんど気にかけることなく、それぞれが思い思いの暮らしをしています。この様な状況の中で、私たちは幸せにも、お釈迦様の誕生を祝う「お花まつり」に参加する機会に恵まれ、お釈迦様の大慈悲に感謝するとともに、一旦立ち止まって、心を清らかにして、「自分の命について」「周りの人々の命について」「命とは何かについて」改めて考えてみる機会を得ることができています。

私たちは、日々、少なからず、何か満ち足りない思いや漠然とした不安を抱えて生活しています。無意識のうちに、自分と周りの人と比べて、他人との争いに勝とうとして見栄や虚勢を張り、優越感や劣等感を抱いて、そのため、自分自身を見失い、迷った生き方をしているように感じています。

私たちは常に心に留めておかなければならないことは、授かった自らの命に感謝し、一人ひとりが自分の命を大切にするとともに、他の人々の命を尊び、お互いに慈悲心を持って、支えながら、心を豊かにして人生を歩むことです。

皆さんも、日常生活の中で、お互いに尊重し合い、報恩感謝の念を礎に、「やさしく、かしこく、うつくしく」育って、社会の一隅を照らす女性になれるよう精進努力してください。

白い小鳥

美しい森がありました。無憂の木はオレンジ色の花をいっせいに開き、闇浮の木のまだ固いつぼみが細長い葉かげに見えかくれしていました。どちらも高い木でしたが、ひときわ高くそびえ、広い木かげを作っていたのは菩提樹でした。

木々の下で子どもたちが遊んでいました。手の届くあたりに、ジャスミンの白い花が良い香りを放っていました。少女たちはジャスミンをつんで髪にさしたり、一つ一つ香りを楽しんでは花輪作りに熱中していました。

木々の枝をとびまわっていたシマリスやサルも降りてきて、少年たちと遊びました。おだやかなひとときがゆったりと流れていました。

そのとき、どこからか美しい鳥の声がしました。子どもたちはだれも、手を休め、足を止めてその声に耳をすましました。澄んでよくとおる珍しいさえずりでした。ひとりの少年が声の方へかけていきました。少年は菩提樹が続くあたりをふりあおいでいました。

「何の鳥かしら」と、だれもがおぼろに思いながら、美しいさえずりに耳をそばだてていました。

その声がピタリと止みました。

少女たちがいっせいにふり向くと、少年たちが、木の下のしげみをかきわけていました。

「どうしたのかしら」

不審に思った少女たちが花輪をおいて立ちあがったときでした。

「見つけたよ」

少年が真っ白いものを、両手でそっと持ってこちらへかけてきます。その後から、大声でどなりながら追ってくる少年がいます。

「待てー、泥棒。それはぼくのだぞー」

少年が持っていたのは白い小鳥でした。

翼を傷つけられて、そこには赤い血がにじんでいました。追いついた少年が、肩で息をしながらいいました。

「それ、ぼくのだよ。返してよ」

いわれた少年は、体を固くして背を向けました。

「返せよ、返せったら」

力づくで取り戻そうとする少年に、年かさの少女がいいました。

「待って、わけを話してちょうだい」

少年は口をとがらせて、後から来た仲間の少年たちにいいました。

「なあ、みんな、この鳥はぼくのだよな。ぼくが石を投げて落としたんだから」

「そうだ、そうだ」とざわめく声の中に、「ちがうよ」というはっきりした声がありました。

「見つけたほうのものだよ。だってあんなにわかりにくい所にいたんだからね。そうだろう」

「そうだな、ぼくたちみんな、ずいぶん探したもんな」

白い小鳥は打ち落とした方か、見つけた方か、どちらのものなのか、少年たちは声をはりあげていい争いました。

「早くしないと、この鳥、死んでしまうよ」

今までじっとだまって小鳥をだいていた少年が必死で叫びました。

一瞬、静まった子どもたちでしたが、また激しくいいつのりました。

「あのね、ちょっと待ってて」

ジャスミンを髪にさした少女が、森の中へ走ってゆきました。

やがて少女は老人の手を引いて戻ってきました。

老人の瞳は、小さな窓のようにそこだけあいて、あとは白い長い髪と、髭とにおおわれていました。

「話は聞いたよ、おじいさんの話を聞いてくれるかね」

子どもたちは老人の優しい瞳とおごそかな声の調子に、黙ってうなずきました。

「生きものの命はだれのものか。それは命を傷つけようとする人のものではない。命を育もう、いたわろうとする人のものなのだよ」

子どもたちの瞳はいつの間にか、老人のそれと同じになっていました。

（本生経）

表紙の絵は 荻堂　愛美里（高3・D組）さんの作品です。毎年「花まつり」の絵を募集しています。
優秀作品は大阪府仏教関係学校連合会の花まつりで表彰されます。生徒の皆さんはふるって応募下さい。

作品テーマ　　おしゃかさまの誕生　（B5の紙に書く）

〆切・提出先　二学期終了までに中高宗教主任まで　来年度は、しおり用の絵を募集します。

13時まで事務所前にも「誕生仏」をお祭りしてあります。休み時間などを利用して灌仏してください。